

世界へ踏み出せ

第65回兵庫リレーカーニバル

534

③

神戸で育ち、神戸の実業団でたくましいランナーになった。堀江美里は、1月の大阪国際女子マラソンで大きな見せ場をつくった。25才付近、自分でも思いがけず、独走態勢に入ってしまったという。予想していたよりも余裕があると気が付き「今、頑張らんとあかんのちゃう？」「今しかない」。自問自答すると、先頭集団から飛び出した。終盤は手足が硬直して思うように走れず、重友梨佐(天満屋)に抜かれ2位でゴール。今夏の世界選手権代表の座は奪われたが、前に出る積極性を日本陸連に評価され、補欠となった。将来性も見込まれた選出に感謝し「私、この先も成長しますよ」の中で唱えた。星陵高3年の夏、全国高校総体近畿地区予選の30

堀江 美里(ノーリツ) GP女子1万円

00位で7位に終わり、上位6人が進む全国舞台には立てなかった。あれから武庫川女大で4年、ノーリツで8年。上体がぶれない安定した走りは、30歳にしてようやく実を結びつつある。

兵庫リレーカーニバルは恩師や友人らが多く観戦し、堀江にとつて「気合の入るレース」だ。マラソンのスピード強化を狙って出場し、目標タイムは自己ベストを20秒上回る32分20秒。「先頭集団に食らい付いて走る。余力を残して、後ろから追い上げるのは好きじゃないので」。柔和な笑みのそばで、強気が口をついた。(藤村有希子)



地元で積極的なレースを誓う堀江美里(神戸市垂水区)

メモ 1月の大阪国際今大会のグランプリ女子万米にエントリーした。重友はロンドン五輪代表入りを決めた2012年大会以来、5年ぶりの頂点に立った。堀江は2年連続の2位ながら、自己ベストを1分近く更新する姿も健闘した。

上位10人中、堀江をはじめ、田中華絵(第一生命)、古瀬麻美(京セラ)の3人がいる。

30歳 まだ成長できる

ほりえ・みさと 1987年生まれ。神戸市立舞子中で本格的に陸上を始め、ノーリツ入社後の2011年と13年にアジア選手権3000円障害に出場。マラソンでは昨年、1月の大阪国際女子で2位に入り、7月のゴールドコーストで優勝した。

2017年大阪国際女子マラソン成績

①重友梨佐(天満屋)	2時間24分22秒
②堀江美里(ノーリツ)	2時間25分44秒
③田中華絵(第一生命)	2時間26分19秒
④ブル(米)	2時間26分53秒
⑤ハアテガフレル(パレーン)	2時間28分36秒
⑥竹中理沙(資生堂)	2時間28分44秒
⑦バーナルテリ(ポーランド)	2時間29分37秒
⑧ツエガ(エチオピア)	2時間30分38秒
⑨古瀬麻美(京セラ)	2時間30分44秒
⑩加藤伸(丸)	2時間31分28秒

(注) 本大会は今年グランプリ万米にエントリー選手、所属は詳し